

【樹木の部屋】

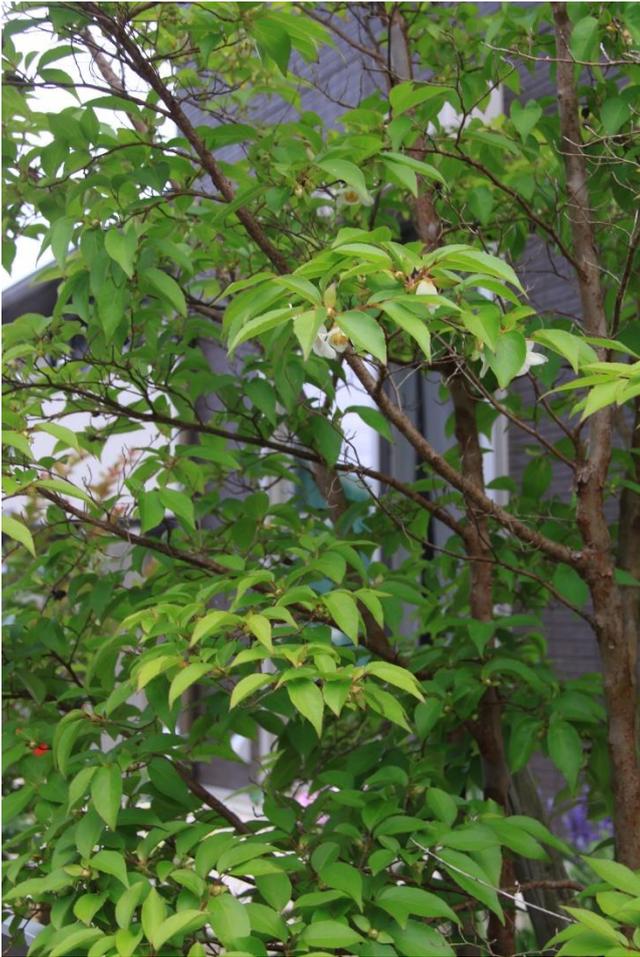
ヒメシャラ (ツバキ科ナツツバキ属 *Stewartia monadelph*)

和名：ヒメシャラ(姫沙羅) **別名**：ヤマチシャ、サルタノキ

英名：Tall stewartia

ツツジ目 落葉広葉高木 **原産地**：日本

花言葉：愛らしさ、謙虚 **花色**：白



← 写真-1 ヒメシャラ

撮影日：2023年5月31日

撮影場所：米原市郊外にて

撮影者：M さん



↑ 写真-2 ヒメシャラの花

撮影日：2023年5月31日

撮影場所：米原市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 小枝

撮影日：2023年5月31日

撮影場所：米原市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-4 若葉

撮影日：2023年5月31日
撮影場所：米原市郊外にて
撮影者：M さん

→ 写真-5 幹

撮影日：2023年5月31日
撮影場所：米原市郊外にて
撮影者：M さん



和名のヒメシャラは、誤って娑羅樹と伝えられたナツツバキ(別名：シャラノキ)よりも小さいことによるもので、サルタノキなどの呼び名もあります。

樹皮や初夏に咲く控えめな花の雰囲気好まれ、古くから庭木として寺院や茶庭に使われてきました。新緑や紅葉も美しく、全般に明るい雰囲気を持つことからシンボルツリーとして一般家庭にも植栽される例も多い樹木です。

シャラノキは本来、インド原産の沙羅双樹のことですが、仏教が日本へ伝播した際、日本に沙羅双樹がなかったため、日本に自生するナツツバキが沙羅双樹と呼ばれるようになったそうです。

6月から7月に、直径2cmほどのツバキに似た白い5弁の花を咲かせます。5枚ある花弁は基部でわずかに密着し、花の中央には多数の雄蕊と、先端が五つに裂ける花柱(雌蕊)があります。花姿はナツツバキに似ていますが、小型で葉に隠れてあまり目立たちません。

葉は互生で短い柄があり、葉身は楕円形から長楕円形、縁には低い鋸歯があり、先端は尖り、ナツツバキより小型です。葉は黄緑色で、全体に毛があり、裏面の葉脈上には軟毛があり、白っぽく見えます。秋になると紅葉します。

幹は、若木のうちは灰色の細かく、ざらついた樹皮ですが、成長とともに樹皮は剥がれ、次第に赤褐色のごく薄い樹皮に変わります。この樹皮は細かい鱗状に剥がれますが、全体としては明るい赤褐色のつるつるしたものに見え、森林内ではひときわ目立つそうです。

若い木の枝はジグザグ状に伸びますが、樹齢を重ねると枝は上へ伸び、樹形全体としては箒を逆さにしたようになります。枝は細くよく枝分かれするため、枝葉が密な印象の樹形となります。

栄養豊富で湿気のある山地に自生するため、土が合わないとうまく育ちません。ナツツバキに比べると適応力は低めで、移植後に枝先から少しずつ枯れていくこと

も多いそうです。植える場所には腐葉土を漉き込むなどして土壌を整えた方がよいそうです。幹は直立し、放任しても整った樹形になります。自然樹形を楽しむ樹で、剪定は必要最低限にすると良いそうです。ノコギリ等で剪定すると、格段に樹形が乱れます。また、花はその年に伸び枝に咲くため、春から初夏にかけての剪定は避けると良いそうです。しかしヒメシャラもシャラノキも、適切な環境でなければ美しい幹肌を見られないそうです。むしろ、幹肌が美しい状態であれば適切な環境である、という指標にもなるそうです。

幹の美しさからヒメシャラはアオギリ、シラカバと並ぶ、「日本三大美幹」と称され、冬の林間では特に目立ちます。材も赤褐色で硬く、彫刻、器具、床柱に使われているそうです。

<ちょっと一言>

○ ヒメシャラとシャラの見分け方

*ヒメシャラ

- ・葉はやや細く、触れた際も細毛の感触が感じにくい。
- ・幹は成長と共に皮が剥けていく為、常に新しい幹肌を見る事が出来ます。
- ・剥ける皮が非常に薄く、細かい毛が抜けていく様な剥け方を見せます。

*シャラ

- ・葉はヒメシャラよりも大きく、葉脈もはっきりとしています。触れると細かい毛の感触があります。
- ・幹は剥ける際にパリっとした皮が剥がれる為、幹皮の剥け跡が斑模様として残りやすい。